

## おわりに

嬉しかったこと

くま・ごろう

嬉しかったこと

学校に行けなくなったとき

お父さんが

「甘やかすな!

世の中で通用せんぞ!」

と怒った

そのとき、お母さんが

「桜子だって、一生懸命なの。

行こうと思って頑張っても、行けないの。

お父さんの気持ちも分かるけれど、

一番辛いのは桜子なんだから・・・」

と、泣きながら言ってくれたこと

お母さん、ありがとう

嬉しかったこと

部屋で浜崎あゆみのCDを聞いていた

お父さんが入ってきた

叱られると思って、わたしは固まった

お父さんは座って、黙っていた

固まったままのわたし・・・

お父さんが

「なかなかいい曲やないか・・・」

また・・・沈黙

「無理するな・・・

ゆっくり休むんやぞ・・・」

思わず涙がこみ上げた

ごめんね、お父さん

嬉しかったこと

わたしがずっと休んでいるのに

「桜子さんの顔を見たかったで」

と言いながら、先生が毎週来てくれた

ほほえみさんも来てくれた

話したり、一緒に遊んだりした

「こんなわたしでもいいのかな・・・」

と思うようになった

学年主任の先生も来て

「何か、できることはないかね?」

と言ってくれた

わたしは見捨てられていないんだ

わたしのこと、覚えていてくれるんだ

次の約束の日が

待ち遠しいような、ちょっと困るような・・・

嬉しかったこと

「おーい、桜子ちゃん。来たよ」

友達がプリントを持ってきてくれる

「このCD、なかなかいいね

アユのCD、今度貸してね」

と言ってくれる

「今度の日曜は、来てよ。

うちの家で遊ぼうよ」

と、わたしを誘ってくれる

前と一緒に

友達は友達のままだ

わたしもわたしのままでいいのかな・・・

こんなわたしでいいのかな・・・

こんなわたしでいいのかもしれない・・・

日常のふれあいが、互いの理解を深めてくれます。可能性を発見し、よさを輝かせるために、この手引が一助となれば幸いです。

子ども、家庭、地域、専門機関の皆様、学校関係者のほほえみの輪が広がりますように。

学校指導課 熊田 正俊